

「全鍍連」 2022年 11月号 いきいき地域

全鍍連情報・国際副委員長 福井 通人（福井電化工業(株) 代表取締役社長）

「いつになれば、アフターコロナがやってくるのか」



福井電化工業(株)という名前から、名刺を渡すと「千葉の会社なんですね」とよく言われます。私の会社はディズニーランドから2駅と近く、帰りが遅くなると、帰り道からディズニーランドの花火が見えます。

コロナが第6波のあと比較的収まり、コロナ自体も重症化の割合も減ってきた中で、色々なことが再開し、「やっとアフターコロナの時代がやって来る」と思った矢先に第7波が来ました。今回は仕事をしている現役世代感染者が多いのか、当社や周りの会社でも感染者がちらほら出て、こんな時代で余剰人員がいる訳もなく、お得意様に謝り、納期の延長をお願いしたり、出来るものは手分けして作業を行っております。当社ではダブルキャスト制を推進しているものの、いざと言う時にはやはり難しく、自分の仕事を終わらせてから、欠員の出ているラインの作業を行うので非効率です。

千葉県鍍金工業組合では、瀧澤新理事長の元、役員一丸となって補助金等を活用し、勉強会を開催したり、理事会を開催したりとコロナ禍でも積極的に活動しております。私は日本鍍金協会十日会の会長をコロナ禍の2年間勤めさせていただきました。リアルで会える例会が、忘年会を合わせて3回しか開催出来ませんでした。今年田島新会長にバトンタッチしてからは、毎月対面での月例会と役員会を実施しており、活発な意見交換が行われる様になりました。

今年4月には、青鍍会・名鍍会・十日会の3会からなる日本鍍金協会の60周年式典も無事開催され、合同役員会、秋季大会も通常通り開催されました。11月には青鍍会40周年記念式典も開催されることになっており、全国の青年部の方と久しぶりに会えるのを楽しみにしています。

この様に徐々にコロナ前の生活に戻りつつありますが、それでも今後周期的にやって来ることが予想されるコロナの波を乗り越えて行くためには、一層難しい舵取りが迫られることになると思います。

本当のアフターコロナはいつになったらやって来るのでしょうか。